

新火葬場の施設規模と今後のスケジュール（予定）について

1. 施設規模（案）

（1）基本コンセプト（案）

- ①旅立つ故人の尊厳を大切にする空間
- ②緑に囲まれて心を癒せる空間
- ③見送る人の心を大切にする空間
- ④周囲の景観や環境に配慮した施設、多治見らしさを表現
- ⑤建設費用や維持管理が経済的

（2）おもな施設の概要（案）

- ①敷地面積 約20,000㎡（用地拡張後）
- ②施設床面積 3,000～3,500㎡（式場併設）
- ③火葬炉数 6炉
- ④多目的炉（動物炉） 1炉
- ⑤告別室 2室（個室）
- ⑥収骨室 2室（個室）
- ⑦待合室 3室（個室）
- ⑧霊安室 1室
- ⑨式場（ホール） 1室（60～100席程度）
- ⑩遺族控室 1室
- ⑪駐車場
一般用 120～130台程度
マイクロバス 3台程度
従業員用 10台程度
- ⑫その他に待合ロビー、会議室、授乳室、僧侶控室、業者控室、自販機室等を検討中

2. 今後のスケジュール（予定）

	23	24	25	26	27
環境アセス	←→				
都市計画位置決定 手続		←→			
調査業務（地形・用地 測量、地質調査）		←→			
設計業務 （造成、建築）		←→			
工事（土木）			←→		
工事（建築）				←→	
新火葬場建設検討 委員会	----- ←→				

※設計業務は、エスキスにより業者選定の予定

○火葬炉業者の選定

火葬炉は、排ガス等の周辺環境への影響や建物の仕様にも影響があることから、プロポーザルによる業者選定を実施予定。

選定にあたっては、火葬炉設備自体の性能だけでなく、地元からの強い要望でもある「周辺環境への影響（排ガス等対策）」、財政的な視点（初期投資額と維持管理費用（修繕費用）、燃料費）、緊急時対応やアフターサービス等を評価項目とし、総合的に評価し決定します。